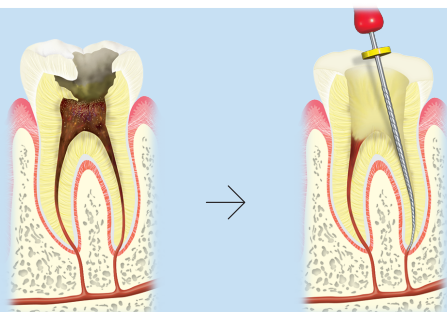


「根っこの治療」ってどんな治療？

歯を残す
最後の切り札！

STEP
1

かき出す

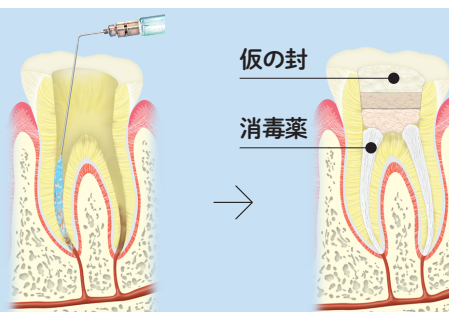


① 大きなむし歯ができ、神経が細菌に感染して膿んでいます。そのまま炎症が広がると、抜歯しなければなりません。

② 膿んだ神経をかき出し、歯のなかで繁殖した細菌を減らしていきます。歯を傷めないように細心の注意を払います。

STEP
2

殺菌する

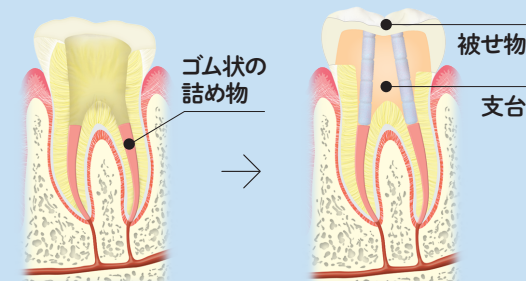


③ 神経をかき出した管のなかを薬剤できれいに洗います。

④ 消毒薬を詰め、新たな細菌が入らないよう仮の封をします。2～3回の通院で②③④を行い念入りに殺菌します。

STEP
3

封をする



⑤ 十分に殺菌ができたところで、空洞になった管の封鎖のためゴム状の詰め物をします。

⑥ ガッチリ丈夫に封鎖し、その上に被せ物を支える台(支台)を作り、そこに被せ物を被せます。

予約の間隔を
あまり
空けないで。

根っこの治療は、1週間に1回程度が理想です。治療の間隔は、長く空いたとしても4週間以内にしましょう。この治療では、掃除をした根っこに細菌が入らないようにシャットアウトする封の役割が非常に重要なのですが、治療途中の封は、はずして掃除することが前提の「仮の封」なので、耐久期間は4週間程度といわれています。

治療の間隔が1ヵ月以上も空くと、封の隙間から細菌が入りそれまでの治療が無駄になってしまうことも。治療はあいだを空けずに終わらせましょう。また、根っこの治療後の被せ物を入れる治療も、同じ理由で、放っておかず早期に開始することをおすすめします。



Check

経過観察のための
定期検診を
受けましょう！



できれば半年に一度、少なくとも1年に一度はレントゲンを撮り、チェックしてもらいましょう！

治療後の経過観察はたいへん重要です。治療が終わって症状がいったん消えても、万が一炎症が残っているとジワリと痛みが再発することがあるからです。とくに、根っこの再治療は難治療になる場合が多く、専門医が治療をしても成功するとは限りません。こうした変化を早期にチェックし、悪化しないうちに手だてを講じるため、少なくとも年に一度は治療を受けた歯科医院でレントゲンで確認してもらいましょう。治療後の経過観察は4年間が目途とされています。4年間再発がないようなら、まずは安心していただいと思います。

知ってほしい 根っこの治療後の痛みのこと。食事のこと。

治療をスムーズに進めるための治療前ガイダンス！

治療後の痛みや違和感は6～7割のかたが経験します。



根っこの治療で痛みを経験する患者さんはとても多いです。我慢できないほどの痛みから、ほとんど気にならない程度の痛み(違和感)まで含めると、6～7割の患者さんになんらかの症状が出るのが疫学調査でわかっています。

治療を受けるたびに起きる痛みや違和感はつらいでしょうが、じつはめずらしいことではなく、治療がうまくいっていてもふつうに起きる症状です。2～3日過ぎるとだいぶ楽になり(痛みのピークは48～72時間)、1週間もすれば、痛みのある患者さんの95%が治まていきます。我慢できないような痛みでないならば、2～3日様子を見ることをおすすめします。

治療した歯では噛まないでください。

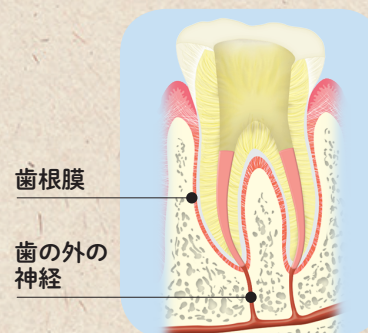


根っこの治療後に食事をするときは、治療をした側で噛まないようにしましょう。内部を掃除中の歯には本格的な補強がされていないので、噛む力で割れてしまうことがあるからです。また、噛んだ刺激が痛みを誘発してしまうこともあります。

とくに、仮歯が入っている状態で噛むと、治療中の根っこに強い力が加わるので、トラブルの原因となることもしばしばです。根っこの治療中、仮歯が必要なかたは、噛み合わせなどに注意してお過ごしてください。仮の封や仮歯が取れたときは、歯科医院に至急ご連絡をお願いします。

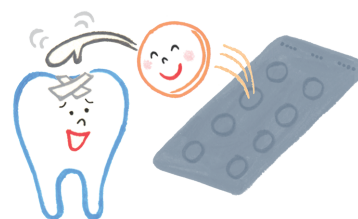
Check

神経を取っても痛みを感じるのはなぜ？



根っこの治療にともなう痛みの詳細は、いまだ解明されていません。根の先の急性的な炎症が原因で、おそらくは、歯のなかを掃除するときに細菌が一時的に活性化してあばれたり、つつく刺激や嘔む刺激、消毒薬の刺激が加わったりするからではないかと考えられています。神経(歯髄)を取ったあとも、歯をつつんでいる歯根膜など、歯の周りには痛みを感じる敏感なセンサーが張り巡らされています。そうしたセンサーが急性症状を感じているのです。

痛みを我慢せず薬は早めに飲みましょう。



歯科医院でもらった痛み止めの薬は、「痛くなってきたな」「痛くなりそうだな」と思ったら、我慢せずに早めに飲みましょう。強い痛みを我慢すると、痛みに対する感覚が敏感になってしまって痛み止めが効きにくくなるからです。また、痛みのないときは、飲む必要はありません。

通常2～3日分が処方されますが、ご希望のかたには、追加で処方いたしますし、市販の痛み止めを飲んでかまいません。

ただ、薬を飲んでも効かないほどの強い痛みがある場合は、つぎの予約日まで待たずに歯科医院に連絡し、なるべく早く診てもらいましょう。